

# 市民のチカラ

市内で活躍する  
さまざまな団体をご紹介します

## Meetむさしの

左奥から上澤さん、  
山中さん、齊藤さん。  
左手前から山田さん、木村さん

## 地域で活動する団体や人の 思いと物語を伝える

市内を中心にさまざまな地域活動に携わる市民団体や個人についての情報発信を行うウェブメディア「Meetむさしの」。単に地域の団体紹介ではなく、携わる人にスポットを当て、その思いと背後にある物語を掘り下げた読み応えのあるインタビュー記事などを配信しながら、地域と人をつなぐきっかけづくりの場を提供しています。

運営の中心となるのは、仕事や子育てを機にほかの地域から市内に引っ越して来た方々。「子育てをしながら何か地域と関わることができないかなと思っていたところ、市と市コミュニティ研究連絡会が行う『地域をつなぐコーディネーター養成講座』を知って参加しました。そこで、同じように市外から移り住んで来た子育て世代や地域活動に関心を持つ同世代と出会って、デジタルを使った地域情報の発信を行う場をつくったらどうかという話になったんです」と立ち上げメンバーの一人、山中敦志さんは充足の経緯を語ります。

「武蔵野市は市民活動が盛んで、活動

団体も数多くありますが、誰がどのような思いで行っているのかよく分からないこともあります。であれば、携わっている人に直接会い、その思いや物語を伝えよう、と。何より自分たちが知りたいことでもありますから」と上澤進介さん。

2023年春の市議会議員選挙の期間に候補者へのアンケートを実施するなど、市政に関わる情報も発信しています。「市民活動と市政は切り離せないもの。今後も市民が判断するための材料を分かりやすく提示したい」(山中さん)

特に作業の義務やノルマは設けず、日ごろからオンライン上でのおのの興味や関心を持ち寄って情報共有をしながら、本業の合間に「ゆるくつながる」活動をするのが継続のコツだと言います。「今のスタンスを保ちながら、プラットフォームとしての役割をより充実させて、今は取材対象者同士の横のつながりが生まれるようなイベントも企画していきたいです」と山中さん。外からの視点とデジタルを駆使したユニークな地域情報の発信は、今後ますます充実しそうです。

## Meetむさしの

市主催の「地域をつなぐコーディネーター養成講座」第1期、2期の参加者が中心となり、2019年に発足。市内を中心に地域活動に携わる団体や個人を掘り下げた記事を月1回程度公開し、市政情報の「見える化」も行っています。コアメンバーは8名。「地域への関心や思いがあるメンバーを随時募集中です」(山中さん)



Meetむさしののメンバーの皆さんは、取材中も和気あいあいとした雰囲気



ウェブメディア「Meetむさしの」。市内を中心に活躍するさまざまな方々のインタビューを掲載